

# みんなで考える高砂市の新たな学校づくり

## ～これからの学校のあり方を考えよう！～【教職員アンケート】まとめ

2025年5月30日～  
2025年6月15日

### ■ 1学年のクラス数【小学校】

【2～3クラス 102人】  
・クラス替えができ、学年団で相談しやすい  
・教職員の体制が安定し協力体制を取りやすい  
・学級数が多くなると、学年全体を見ることが難しくなり、指導が徹底しない  
・単学級を担当した先生は他の学年よりも負担が増えてしまう  
・教科担任制や担任交替わり制など効果的な教育編成が組め、児童の共通理解が図りやすい  
・きめ細やかな指導ができる  
・過去の勤務経験から、単学級より2クラス、2クラスより3クラスの方が学年としての活動の幅が広いように思うため  
・複数の教員で学年全体、子どもの様子などを見ることができる  
・教師の連携が取りやすく、学年の意思疎通がしやすい  
・2～3学級あれば、毎年クラスの様子が変わり、いろんな教室環境の中で過ごすことができる  
・単学級ではクラス替えがないため、児童間の人間関係が固定してしまう  
・中学校は4クラス以上が適正だと考えるので、それに合わせて小学校も2クラス以上で、中学校へは2校以上から集まるのが良いと思う  
・人間関係に配慮したクラス替えができる  
・子どもたちの人間関係を踏まえたいうでのクラス替えが可能なら、学年全体の児童を学年団で把握できる  
・クラス替えを可能にしたり、人間関係を考えた集団づくり、複数教員の配置するためには1学年2～3学級が望ましいと思う。  
・きめ細かな指導をすることと、人間関係の固定化を防ぐことの2つのことを考えたときに、3学級程度が適切と考える  
・新たな友だち関係を築き、集団づくりができる  
・運動会や音楽会等の行事においても、集団での活動がしやすい  
・行事等を行っていくうえで、学校としての集団である良さを発揮できる規模であると思う  
・学級数が多いと、行間休み等に運動場等で遊びにくいように思う

【その他 14人】  
○2～4学級以上  
・学級における児童数が少ないほど、学級の安定や学習の保障ができやすいと考える  
○3～4学級  
・一人ひとりの子どもへ、必要な支援がしやすいため  
・多様な人間関係の育みが期待できる。  
・1学年複数人の担任を配置することで、職務の割振りができる。  
○その他  
・学級数を決めることよりも1学級あたりに何名の児童がいるかの方が重要

### ■ 1学年のクラス数【中学校】

【4～6クラス 101人】  
・授業時数や評価の時間的な負担、校務分掌を考慮すると、4クラス以上が適正だと考える  
・3学級だと学年教職員が少なくなり、宿泊行事など影響が大きい  
・過去の勤務経験から、4～5クラスが適正だと思う。少ないとクラス替えに支障があるし、多いと把握できない。少なくとも多くても学年で活動する際、支障がある  
・4クラスであれば、5教科の担当も1人で学年の授業をおこなうことができる  
・国の基準より小さいと教職員の数が少なくなり学校運営に支障が出る。大きいと教職員間の報連相ができにくくなる。  
・4学級以下は、学年教師の人数が少なく、担任と教科担任の負担が大きくなると感じる  
・クラス替えの際に人間関係を配慮しやすくなる  
・クラス替えを機に登校しやすくなることもあるのではないか  
・クラス替えを契機として、生徒が意欲を新たに頑張っている様子を見ることができる  
・クラス数が少ないと、多様な考え方に触れる機会も減る  
・クラス編成で悩むことも多く、選択肢が多い方がよいと考える  
・思春期の生徒の目線からすると、話ができる教師を見つけやすい  
・生徒同士の学年担当の教師が多くなるので、生徒は多様な価値観に触れることができ、教師はさまざまな視点で生徒一人ひとりをとらえることができるため、多面的に評価できる  
・オンライン授業だけではできないところを大事にしていくには、このぐらいの規模が必要であると考え  
・行事等を行っていくうえで、学校としての集団である良さを発揮できる規模であると思う  
・行事等でクラス対抗ができたり、多くの集団の中で成長できる

【その他 15人】  
○2～3学級  
・学年での動きが取りやすいから  
○6～8学級  
・人間関係によってクラスを離さなければいけない児童生徒がたくさんいる場合、選択肢が多い方がいい。  
○その他  
・学級数を決めることよりも1学級あたりに何名の生徒がいるかの方が重要



### ■ 少人数学級の必要性

【必要(15人未満) 2人】  
・できるだけ少ない人数の方が目が行き渡る  
・少ない方が子ども一人ひとりに関わる時間が増える  
【必要(20人未満) 12人】  
・少ない人数で学習できることで、学習を苦手とする子どもたちに細かいサポートができる時間が確保できるから  
・少人数になることで家庭訪問や成績処理など担任の負担が減り働き方改革につながるから  
・現状では、配慮を要する児童に十分な支援ができないため  
【必要(25人未満) 42人】  
・1クラスの人数を抑えることで、教師と子どもとの関わりが深くなる  
・一人ひとりの学習状況を丁寧に見れたり、人数が少なすぎて一部の子の意見が反映してしまうことも防ぐことができる  
・子どもたちが抱えている困りごとや保護者対応などにきめ細やかな対応ができ、教職員の精神的な負担が軽減される  
・教育的ニーズが必要な児童や家庭が増えている背景があり、35名では見切れないことがあると考える  
・あまり少なすぎると、男女比のバランスが取れない場合や、学級内で派閥が出来てしまった場合に孤立する子どもが増えるのではないかと

【必要(30人未満) 43人】  
・集団としての活動を残しつつ、児童生徒の理解度や性格に応じてきめ細かい指導が可能になる  
・子どもの数が減ってきているが、子どもの家庭的背景や特性を持っている子などが年々増えてきているように感じており、子ども一人ひとりに向き合うことが難しく感じる場面があるため  
・学級で役割を与えたり、グループ活動がしやすく、教師もよりきめ細やかに一人ひとりと関われると思うから  
・少なすぎると切磋琢磨して成長する妨げになり、多すぎると細やかな配慮に欠ける  
・学校への要求が複雑・多様化する中で、個に応じたきめ細かな指導を行え、スペースを考えた時に少ない人数の方が良い  
・人数が多すぎると担任だけでは個別の対応が難しくなるため

【必要ない 17人】  
・授業は少人数で行った方が効果的であると思うので、現在実施されている少人数授業の教科や学年を増やしていただきたい  
・クラス内にある程度の人数がいた方が、気が合う子を見つけやすいと思う  
・少ないに越したことはないが、予算や人材確保の面では難しいと考えられる

### ■ 通学距離【小学校】

【4km以内 66人】  
・子どもの安全面、体力面を考えると4km以内が適当だと思う  
・距離だけの問題ではなく、歩きやすい道かどうか、交通量など、他の要素も絡むと思う  
・遠すぎると登下校だけでも疲弊してしまうことがあったり、距離が長くなればなるほど事故・事件に遭遇する危険性が増したり、夏場であれば熱中症になったりする可能性があるため  
・4kmに近い状況の場合は、スクールバス等の利用も検討する必要がある。

【その他 50人】  
○2km以内  
・児童の体力的・時間的な負担感があり、好ましいと思われないため  
○6km以内  
・家庭の都合で選択できる余裕があったらよい

### ■ 通学距離【中学校】

【6km以内 93人】  
・自転車通学が認められているから  
・通学距離が長すぎると体力的・時間的にもしんどくなるから  
・6kmを超えると生徒の安全を確保しにくくなるため

【その他 23人】  
○3km以内  
・荷物も軽いとは限らないので、通学に時間がかかることは避けるべきだと思う  
・不審者やトラブルを避けるためにも通学に時間はできるだけかからない方がいい  
○4km以内  
・部活等で帰宅が遅くなった場合に不審者等に会う危険性が増大するため

### ■ 生徒の自転車通学の可否

【可能とするべき 50人】  
・部活動が地域展開を見据え、学校から直接活動場所へ行く可能性があるから  
・個人の判断で自転車での登下校を認めてもいいのではないかと  
・熱中症対策になる

【可能とするべきではない 66人】  
・自転車通学が集中することで事故を誘発する可能性があるから  
・安全面、交通マナー、自転車置き場の確保に難があるため  
・近ければ自転車通学する必要はないと思う  
・通学マナーの徹底ができておらず難しいと思うが、環境を整えれば可能とした方がよい

### ■ 通学時間【小学校】

【60分以内 51人】  
・長時間だと集中力、安全意識の低下、学習意欲の低下につながりそう  
・長すぎると安全面等の課題が考えられる  
【その他 65人】  
○30分以内  
・災害時の保護者の迎えにあたって、時間が少しでも短くなることが望ましい  
・交通安全、不審者問題、熱中症や大雨などの問題から妥当だと思う  
○40分以内  
・小学生の体力面と登下校時に熱中症のリスクを減らすため  
・30分以内が理想だが児童の歩く速度的に校区が狭くなりすぎると思うので、間の40分

### ■ 通学時間【中学校】

【60分以内 71人】  
・中学生は体力もあり、適当だと思う  
・自転車の使用ができるようになり、距離との兼ね合いを考えるとそれぐらいになる  
【その他 45人】  
○30分以内  
・30分以上は子どもたちの負担にもなるし、事故等の危険性も高まると思う  
・貴重な時間を通学に30分以上費やすのは生産的ではないから

### ■ 交通機関の利用検討

#### 【小学校】

【30分以上 97人】

【その他 19人】  
・時間だけでなく、へき地や山道とか臨機応変に考える必要がある

### ■ 交通機関の利用検討

#### 【中学校】

【30分以上 97人】

【その他 19人】  
・40分を過ぎると事故事件が心配になる  
・徒歩で40分、自転車で50分以上

小学校 73名  
中学校 43名が回答

# みんなで考える高砂市の新たな学校づくり

## ～これからの学校のあり方を考えよう！～【教職員アンケート】まとめ

2025年5月30日～

2025年6月15日

### ■ 小中一貫教育の形態

【義務教育学校 31人】

- ・一人の校長、一つの教職員組織の方が協議事項などの際に合意形成がしやすいと思う
- ・教育相談や特別な支援が一貫して行える
- ・小学校と中学校で区切らず、年齢に合わせた活動ができると考えたため

【施設一体型 27人】

- ・施設が一つになっていることで交流もしやすく、現在より一層一貫して関わることができるため
- ・小学校と中学校は別々の方がいいが、同じ敷地にあれば児童生徒間も教師間もコミュニケーションが取りやすいと思うし、指導方針や支援体制の共有が円滑になる
- ・児童生徒にとって9年間を通した学びの意識が高まり、見通しを持って成長できる環境が整う

【施設分離型・隣接型 58人】

- ・行事を同時に行うと本来一番活躍して自尊心が成長する小6の成長の場を奪ってしまうことになると思う
- ・校舎が隣同士なら児童生徒も教師も交流がしやすく、校種の実情に応じた教育活動が行える
- ・施設一体型だと体の大きな中学生と小学校1年生が一緒にいることになり、ケガ等も増えることが予想される
- ・小中で指導重点項目や時程に違いがあり、擦り合わせをする時間が必要だと思う
- ・施設一体型の方がコンパクトで良さそうだが、現実的には、ある程度距離間がある方が良い面が多いと思う

### ■ 小学校給食

【自校式の継続 68人】

- ・調理風景が見え、子どもの感謝や興味を育むことができる
- ・アレルギー対応、除去食対応がスムーズ
- ・栄養士、調理員の方と連携が取れやすいため

【給食センター式 2人】

- ・アレルギー対応等が学校によって差が出ないほうが良い

【その他 3人】

- ・一番経済的なものが良い

【必要な設備・機能】

- ・アレルギー対応のための設備
- ・空調設備の設置
- ・トイレの洋式化

### ■ 中学校給食の課題

- ・開始時間が限定されており、学校独自の教育課程を編成しづらい
- ・アレルギー対応の負担が大きい

### ■ サポートルーム

【設置場所】

- ・職員の目が届きやすく、他の児童生徒からの距離等の配慮ができる場所
- ・校内の1階(門に入ってから近い場所)、普通教室の前を通らない場所

【空間(部屋)のあり方】

- ・パーテーションなど可動式でレイアウトが変えられるのが望ましい
- ・教室に戻れるよう居心地をよくしすぎない
- ・自分一人で考えたり過ごしたりできる場所と他の子と過ごせる場所の両方の空間が必要

【必要な設備・機能】

- ・空調、絨毯、ソファ、可動棚、パーテーション、オンライン授業をできる設備、職員室と繋がる電話

【その他】

- ・サポートルームの運用や利用方法を明確にしてほしい

### ■ 特別支援学級

【設置場所】

- ・1階またはエレベーターの近くで、避難しやすい場所
- ・交流学級と行き来しやすい場所
- ・職員室や保健室の近くで、静かに落ち着いて過ごせる場所

【空間(部屋)のあり方】

- ・広い空間をパーテーション等で区切り、複数の学級がフレキシブルに活動できるような空間
- ・障害種別に対応できるような空間
- ・学級数増を見越した拡張性・可変性のある部屋

【必要な設備・機能】

- ・エレベーター、空調、多機能トイレ、パーテーション、防音設備、シャワールーム、電子黒板
- ・障害種別に応じた設備・機能

【その他】

- ・1学級の定員を8人以下にしてほしい

### ■ ICT環境のあり方

- ・敷地内全域(教室・体育館・運動場・屋外・中庭など)で安定して使えるWi-Fi環境
- ・機器の不具合が多いため、予備端末を常備し、故障時にすぐ使えるようにしてほしい
- ・電子黒板や壁掛け式・天井吊り式のプロジェクター・スクリーンを設置してほしい
- ・セキュリティの強化、技術面・法律面の専門知識を持った支援員の常駐
- ・有料学習ソフトの無償化
- ・離れた場所でも教職員同士が連絡を取り合える仕組み

### ■ 教職員の働く環境

【空間(部屋)のあり方】

- ・休憩スペースや授業準備の作業用スペース
- ・全教室に空調
- ・職員が打合せや相談できるフリースペース
- ・職員室の拡張、企業並みのワーキングスペース
- ・更衣室やロッカー

【環境】

- ・明るく開放的な職員室
- ・各教室を見渡せるような配置やユニバーサルデザインを取り入れた設計
- ・修繕が必要な箇所はすぐに直してもらえる体制
- ・壁がホワイトボードになっていて、いつでも書き込める環境

【必要な設備・機能】

- ・職員室と各教室を繋ぐ電話(校務用携帯含)
- ・エレベーター、空調、ロッカー、プリンター、スキャナー、大型モニター
- ・ネット環境の強化
- ・適所への防犯カメラや緊急通報装置の設置
- ・オートロックまたは警備員の常駐

【その他】

- ・人員を増やして確実に休憩できるような勤務体系の整備
- ・トイレの場所や教室移動がしやすい環境を整えることで、教員の指導の負担が減る

### ■ 多様な学習形態

【空間(部屋)のあり方】

- ・可動間仕切りによる教室と廊下の一体的なスペース
- ・2つの教室をつなげて合同授業が出来るように、拡張・連携可能な教室
- ・学びの形に合わせて形を変えられることができる空間
- ・グループ学習が余裕をもってできる広い教室
- ・様々な学習に活用できる多目的スペースや小さな部屋の複数あると良い
- ・こどもの人数を減らし、一人ひとりの子どもが自分に合った学びを確立できる空間

【必要な設備・機能】

- ・プロジェクター、電子黒板、キャスター付きの折り畳める机・椅子、スクリーン、広いロッカー
- ・投影・板書が兼用できるホワイトボード
- ・遠隔授業ができる設備(授業の自動録画など)
- ・取り出しやすいタブレット保管庫の設置
- ・発表、協働活動で声の届きやすさを確保するための音響機器

【その他】

- ・職員室前に勉強できるスペース

### ■ 新しい時代の教育環境

- ・Wi-Fi環境を整備し、こどもたちが安心して自由にICTを活用できるようにする
- ・自動開閉できる暗幕の設置
- ・コワーキングスペースのような1人で学習に取り組める空間
- ・リモートワーク、リモート授業ができる環境
- ・専門的な人材の配置
- ・教職員が新しい時代の学びにアクセスしやすい環境づくり
- ・こどもが自ら学びやすい協働的な環境
- ・教師が授業の準備を行うことができる勤務形態の確保(人員の増員やモノの適正配置など)
- ・備品が増えているため普通教室は今より広さが必要
- ・新しい学び＝ICTの充実と単純に考えるのではなく、フィールドワークや地域交流、文化の継承、インクルーシブ教育の視点など多角的に児童生徒の学びを捉え、本当に必要なものは何か協議する場が必要

### ■ 地域団体に貸し出し可能

#### だと思ふ部屋(3つ)

- ・普通教室 5票
- ・特別教室(理科室、音楽室、家庭科室等) 21票
- ・多目的教室 65票
- ・図書室 68票
- ・会議室 77票
- ・なし 12票
- ・その他 10票
- コンピュータールーム、作法室 など

### ■ 地域住民と共有(開放)

#### できる部屋や機能

- ・運動場、テニスコート、体育館、武道場、プール、図書室、家庭科室・調理室、和室、音楽室、会議室、作法室、駐車場、駐輪場
- ・多目的室での文化活動・公民館活動・体験活動
- ・福祉教育やキャリア教育で地域から講師を募集
- ・学校備品は学校優先で、貸し出しできるものは貸し出ししていけばいいと思う
- ・放課後学習やワークショップができる教室
- ・児童がいる時間帯は共有・開放するのは不安が残る
- ・子どもの個人情報が見られてしまう校舎・教室等に、外部の人が自由に出入りすることに抵抗を感じる
- ・共有する場合の安全対策が整っていれば共有できるが、対策が取れるかわからないのであれば、開放するのは難しい

### ■ 他機能と複合化する場合、

#### 望ましいと思う施設(3つ)

- ・地域交流センター等の市民文化系施設 36票
- ・こども園や保育所等の子育て支援施設 45票
- ・地域包括支援センターや保健センター等の保健福祉・医療施設 23票
- ・サービスコーナー等の行政系施設 9票
- ・デイサービス等の高齢者福祉施設 0票
- ・保護者や地域住民が自由に使えるスペース 19票
- ・スーパーやコンビニ等の商業施設 5票
- ・他機能との複合化は望ましくない 41票
- ・その他 6票
- 交番、図書館 など

### ■ セキュリティ対策

- ・警備員(警察官)の常駐、セコムや防犯カメラの設置、オートロック機能や顔認証機能の導入
- ・IDによる入退室管理、シャッターの設置、鍵の電子化、校門での受付後に入場許可証の発行
- ・出入口を分け、動線も別にする
- ・個人情報の流出を防ぐため、第三者から見えない工夫が必要
- ・共有する場合、利用時間を区切らなければ安全性は守られない
- ・子どもたちの学習空間と共有空間が物理的に離れていること
- ・具体的にどのように共有するかでセキュリティを含めた課題が色々出てくると思うので、それらを総合的に考えた対策が必要だと思う

### ■ 地域とともにある学校

#### づくりの推進

- ・地域からの意見を吸い上げ、できる限り実現したり、学校から地域に依頼を出したりして、相互の繋がりを積極的に作っていく必要がある
- ・地域の人材に学校で行う教育活動の協力をお願いする
- ・学校の教育活動に積極的に地域住民等が参画できる機会をつくる
- ・地域の人材を活用した授業づくり
- ・学校側から、地域に対して、開くことができる範囲を明確にしていけばいいと思う
- ・学校という空間・施設を誰が使うか、どう管理するかが問題
- ・学校での取り組みの発信(めざす教育など)
- ・地域住民や関係機関と積極的に連携し、情報共有や意見交換の場を設けることで、地域の課題やニーズを把握しやすくする
- ・文化祭や体育大会等を地域にもう一度公開する方向で、少しずつ地域とともにある学校を進めるべき